

# 仙人

芥川龍之介

青空文庫



皆さん。

私は今大阪にいます、ですから大阪の話をしましょう。

昔、大阪の町へ奉公ほうこうに来た男がありました。名は何と云ったかわかりません。ただ飯炊奉公めしたきほうこうに来た男ですから、権助ごんすけとだけ伝わっています。

権助は口入れ屋くちいの暖簾のれんをくぐると、煙管きせるを啣くわえていた番頭に、  
こう口の世話を頼みました。

「番頭さん。私は仙人せんじんになりたいのだから、そう云う所へ住みこませて下さい。」

番頭は呆気あっけにとられたように、しばらくは口も利きかずにおまし

た。

「番頭さん。聞えませんか？ 私は仙人になりたいのだから、そう云う所へ住みこませて下さい。」

「まことに御気の毒様ですが、——」

番頭はやつといつもの通り、煙草たばこをすばすば吸い始めました。

「手前の店ではまだ一度も、仙人なぞの口入れは引き受けた事は  
ありませんから、どうかほかへ御出おいでなすつて下さい。」

すると権助ごんすけは不ふ服ふくそうに、千草ちくさの股引ももひきの膝ひざをすすめながら、  
こんな理窟りくつを云い出しました。

「それはちと話が違うでしょう。御前さんの店の暖簾かまどには、何と  
書いてあると御思いなさる？ 万口よろずくちい入れ所どころと書いてあるじゃあ

りませんか？ 万と云うからは何事でも、口入れをするのがほんとうです。それともお前さんの店では暖簾の上に、嘘うそを書いて置いたつもりなのですか？」

なるほどこう云われて見ると、権助が怒るのももつともです。

「いえ、暖簾に嘘がある次第ではありません。何でも仙人になれるような奉公口を探せとおっしゃるのなら、明日あしたまた御出で下さい。今日きょう中に心当りを尋ねて置いて見ますから。」

番頭はとにかく一時逃のがれに、権助の頼みを引き受けてやりました。が、どこへ奉公させたら、仙人になる修業が出来るか、もとよりそんな事などはわかるはずがありません。ですから一まず権助を返すと、早速さっそく番頭は近所にある医者いしやの所へ出かけて行きま

した。そうして権助の事を話してから、

「いかがでしょう？　先生。仙人になる修業をするには、どこへ奉公するのがちかみち近路でしょう？」と、心配そうに尋ねました。

これには医者も困ったのでしよう。しばらくはぼんやり腕組みをしながら、庭の松ばかり眺めていました。が番頭の話を知ると、直ぐに横から口を出したのは、ふるぎつね古狐と云うあだな渾名のある、こうか狡う猾な医者つの女房です。

「それはうちへおよこしよ。うちにいれば二三年中うちには、きつと仙人にして見せるから。」

「左様さようですか？　それは善い事を伺いました。では何分願います。どうも仙人と御医者様とは、どこか縁が近いような心もちが致し

て居りましたよ。」

何も知らない番頭は、しきりに御時宜おじぎを重ねながら、大喜びで帰りました。

医者あつは苦い顔をしたまま、その後を見送っていましたが、やがて女房に向いながら、

「お前は何と云う莫迦ばかな事を云うのだ？ もしその田舎者いなかものが何年いつこういても、一向いっこう仙術を教えてくれぬなぞと、不平でも云い出したら、どうする気だ？」と忌々いまいましそうに小言こごとを云いました。

しかし女房はあやまる所か、鼻の先でふふんと笑いながら、

「まあ、あなたは黙がらつていらつしやい。あなたのように莫迦正直では、このせち辛い世の中に、御飯ごはんを食べる事も出来はしません

。「と、あべこべに医者をやりにこめるのです。

さて明くる日になると約束通り、田舎者の権助は番頭と一しよにやつて来ました。今日はさすがに権助も、初の御目見えだと思つたせいも、紋もんつき附の羽織を着ていますが、見た所はただの百姓と少しも違つた容ようす子はありません。それが返つて案外だつたのでしよう。医者はまるで天竺てんじくから来た麝香じやこう獣じゆうでも見る時のように、じろじろその顔を眺めながら、

「お前は仙人になりたいのださうだが、一体どう云う所から、そんな望みを起したのだ？」と、不審ふしんそうに尋ねました。すると権助が答えるには、

「別にこれと云う訣わけもございませんが、ただあの大阪の御城を見



たら、たいこうさま太閤様のように偉い人でも、いつか一度は死んでしまう。して見れば人間と云うものは、いくらえようえいが栄耀栄華をしても、はか果ないものだと思つたのです。」

「では仙人になれさえすれば、どんな仕事でもするだろうね？」  
こうかつ狡猾な医者の女房は、す隙かさず口を入れました。

「はい。仙人になれさえすれば、どんな仕事でもいたします。」  
 「それでは今日からわたし私の所に、二十年の間奉公おし。そうすればきつと二十年目に、仙人になる術を教えてやるから。」

「さよう左様でございますか？ それは何よりありがと難有うございます。」  
 「その代り向う二十年の間は、いちもん一文も御給金はやらないからね。」

「はい。はい。承知いたしました。」

それから権助は二十年間、その医者の家に使われていました。

水を汲む。薪まきを割る。飯たを炊く。拭き掃除そうじをする。おまけに医者

が外へ出る時は、薬くすり箱ばこを背負とつて伴ともをする。——その上給金

は一文でも、くれと云つた事がないのですから、このくらい重ちゆう

宝ほうな奉公人は、日本にほん中探してもありませんまい。

が、とうとう二十年たつと、権助はまた来た時のように、紋附

の羽織をひっかけながら、主人夫婦の前へ出ました。そうして慇い

懃んぎんに二十年間、世話になつた礼を述べました。

「ついでには兼かね兼がね御約束の通り、今日は一つ私にも、不老不死ふろうふし

になる仙人の術を教えて貰もらいたいと思おもいますが。」

権助にこう云われると、閉口したのは主人の医者です。何しろ一文も給金をやらずに、二十年間も使った後あとですから、いまさら仙術は知らぬなぞとは、云えた義理ではありません。医者はそこで仕方なしに、

「仙人になる術を知っているのは、おれの女にようぼう房ぼうの方だから、女房に教えて貰うが好い。」と、素そつ気けなく横を向いてしまいました。

しかし女房は平気なものです。

「では仙術を教えてやるから、その代りどんなむずかしい事でも、私の云う通りにするのだよ。さもないと仙人になれないばかりか、また向う二十年の間、御給金なしに奉公しないと、すぐばちに罰が当

つて死んでしまうからね。」

「はい。どんなむずかしい事でも、きつと仕遂しとげて御覽に入れま  
す。」

権助ごんすけはほくほく喜びながら、女房の云いつけを待っていまし  
た。

「それではあの庭の松に御登り。」

女房はこう云いつけました。もとより仙人になる術なぞは、知  
っているはずがありませんから、何でも権助に出来そうもない、  
むずかしい事を云いつけて、もしそれが出来ない時には、また向  
う二十年の間、ただで使おうと思つたのでしよう。しかし権助は  
その言葉を聞くとすぐに庭の松へ登りました。

「もつと高く。もつとずっと高く御登り。」

女房は縁えん先さきに佇たたずみながら、松の上の権助を見上げました。権助の着た紋附の羽織は、もうその大きな庭の松でも、一番高い梢こずえにひらめいています。

「今度は右の手を御放おはなし。」

権助は左手にしつかりと、松の太枝をおさえながら、そろそろ右の手を放しました。

「それから左の手も放しておしまい。」

「おい。おい。左の手を放そうものなら、あの田舎者いなかものは落ちてしまふぜ。落ちれば下には石があるし、とても命はありやしない

。」

医者もとうとう縁先へ、心配そうな顔を出しました。

「あなたの出る幕ではありませんよ。まあ、私に任せて御置きなさい。——さあ、左の手を放すのだよ。」

権助はその言葉が終らない内に、思い切つて左手も放しました。何しろ木の上に登つたまま、両手とも放してしまつたのですから、落ちずにいる訣わけはありません。あつと云う間まに権助の体は、権助の着ていた紋附の羽織は、松の梢こずえから離れました。が、離れたと思つと落ちもせず、不思議にも昼間の中空なかぞらへ、まるで操り人形あやつのように、ちゃんと立止つたではありませんか？

「どうも難ありがと有うございます。おかげ様で私も一人前の仙人になれました。」

権助は叮嚀ていねいに御時宜おじぎをすると、静かに青空を踏みながら、だんだん高い雲の中へ昇つて行つてしまいました。

医者夫婦はどうしたか、それは誰も知っていません。ただその医者の庭の松は、ずっと後あとまでも残つていました。何でも淀屋よどやた辰五郎つごろうは、この松の雪景色を眺めるために、四抱よかかえにも余る大木をわざわざ庭へ引かせたそうです。

(大正十一年三月)





# 青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集5」ちくま文庫、筑摩書房

1987（昭和62）年2月24日第1刷発行

1995（平成7）年4月10日第6刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：j.utiyama

校正：かとうかおり

1999年1月5日公開

2004年3月9日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 仙人

芥川龍之介

2020年 7月12日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>